

日刊 動労千葉

87. 2. 7

No.2472

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五六(公衆)〇四七二(22)七二〇七

組織弱体化・組合の不当労働行為

当高・動労革マル一体となった 組織破壊攻撃を粉碎せよ! その2

千葉鉄当局は、検査係や運転係の昇職試験や、EC転換教育を利用した動労千葉への組織破壊攻撃を昨年末より運転部長・斉藤や車務課長・村上らを中心に行ってきた。それは、組合脱退だけを目的とした明らかに不当労働行為であり、断じて許せるものではない。動労千葉は、組織破壊攻撃に対してあらゆる戦術をもって闘いぬく。そして、労働者の首切りを公然と要求する「鉄道労連」を解体・一掃せよ!

「菜の花」が検査・運転係の試験とどう関係あるのか

「菜の花」(直営売店)に行く気はないか」「増収活動をやっているか」「小グループ活動に入る気はないか」

以上は、一月に実施された検査・運転係の昇職試験の面接で、反動当局からなる試験官からだされた質問の一部である。

「菜の花」に行くことが、何故に検査・運転係の試験と関係があるというのだ。さらに面接において「組合活動をやっていた感想は」「労使共同宣言を知っているか、共同宣言を結んでいない組合をどう思うか、結んでいる組合に入る気はないか」などと不安を煽りながら、あ

たかも動労千葉や国労にいただけで差別・選別を行うことを当局自らさらけだし、しかも、「組合を脱退する気はないか」に至っては、明確に労働組合弱体化・分裂を狙った不当労働行為である。

結局「鉄道労連」では生活も権利も守れない

動労千葉においては新会社に行けない「菜の花」に行け! 動労千葉をぬける、と昨年末より動労千葉組合員に対し当局は「脱退工作」を行ってきた。その甘言にたぶらかされ「菜の花」に逃げこみ、

雇用が守れたと思ったら大間違いだ。いま公然と「国労組合員の首を切れ」と絶叫している「鉄道労連」を見てみよ。一企業一組合も、動労千葉・国労つぶしも破産し、「国労をつぶして動労五万、真国労三万」と豪語した革マル松崎の野望は打ち砕かれ、あげくに動労は解散、まさに松崎の危機は末期的だ。だからこそ動労千葉・国労破壊は熾烈さを増し、労働者の首切りを要求しているのだ。四月一日以降、何も解決されず先送りされた国鉄問題の矛盾は必ず爆発する。その危機を合理化・首切りで労働者にすべての犠牲をおしつけてのりきりを図る。そのような資本・労組のもとで絶えず不安な状態に置かれるのである。「鉄道労連」で一体全体、労働者の権利が守れるのか。そうでないことが松崎の危機で明白だ。

動労革マル松崎と
結託した 斉藤・村上ら

五七本科・EC転換のハンドルの訓練に示されるように、動労革マルと斉藤・村上ら反動当局の結託した動労千葉破壊、そして昇職試験における彼らの脱退工作はいまや満天下に明らかとなった。われわれは、悪質・反動当局と、動労「本部」土屋一派に対し断固たる反撃にうつてであることを宣言する。